

授業科目名	ダンスワークショップ実習 C	担当教員	木田 真理子
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2 年 第 2 クォーター		
講義内容	この授業の目的は、ダンス（身体表現）を教える際に必要な創造力、そして技術を培うものです。自らの身体感覚を言語化し、他者との身体感覚の違いを認めることで、ダンスを様々な方法で共有します。＜夏季集中講義＞短期間で集中して、ダンスティーチャーの仕事ならびにダンス教育を巡る仕事に焦点をあてたワークショップを行う。		
到達目標	1. ダンスワークショップにおけるファシリテーターの役割やその意義を理解する 2. ダンスワークショップの現場で、ファシリテーターや補助者として参加できる能力を身につける 3. ダンスもしくは身体系ワークショップを企画し、具体的なプランを立案できるようになる 4. 身体を用いたワークショップが、芸術的な創造や社会的課題の解決にどのように貢献できるかを考察する		
授業計画	<p>本実習では、受講生が実際にワークショップをファシリテートする機会を提供しています（学内実習のため、クラス内で役割を変えて実施します）。</p> <p>ワークショップは事前準備がとても重要ですが、現場の状況によって臨機応変に対応しないといけないことも多々あります。実際にファシリテートにチャレンジすることで、他者との向き合い方、環境が体を与える影響、グループダイナミックス等について学びます。</p> <p>近年国内外で実施されているワークショップの内容はとても幅広く、異なるバックグラウンドをもった人たちがコラボレートしながら実施するワークショップも多くなってきました。そのため、本実習では、担当教員とゲスト講師が共同で授業を進めます。</p> <p>ひとりの人間が得られる知識には限界があり、また提供できる情報にも限界があるため、実習ではクラス全体で一緒にアイデアを練り上げたり、アドバイスをし合ったりすることも大切にしています。</p> <p>受講人数やゲスト講師によって内容調整する可能性がありますが、大きくは以下の内容を考えています。6～8 日間の集中講義（合計 48 時間）。</p> <p>（進め方 一例）</p>		

	<p>1：イントロダクション 授業内容・目的・スケジュール・成績評価方法の説明。 身体系ワークショップの企画立案をする。</p> <p>2：ワークショップをデザインする ワークショップの目的を明確にしたあと、場所、配置、参加人数、時間等の設定を考える。</p> <p>3：ワークショップを試験的に実施する。</p> <p>4：フィードバック、内容の練り直し</p> <p>（＊2～4を繰り返し行う）</p> <p>5：ワークショップの実施（発表）とフィードバック①</p> <p>6：ワークショップの実施（発表）とフィードバック②</p>
事前・事後 学習	<p>実習が始まるまでにどのような身体系ワークショップを企画したいか考えておくこと。事前課題を配布しますので、必ず記入して期日までに提出してください。実習後は報告書（レポート）を提出していただきます。</p>
テキスト	<p>特に指定なし</p>
参考文献	<p>授業内に適宜紹介する</p>
成績評価 の 基 準	<p>平常点：60%（授業内での姿勢・提案・協働、その過程での掘り下げを評価する） 発表点：40%（プレゼンテーション；20%，提出物/報告書の提出・内容；20%）</p>
履修上の注意 履修要件	<p>全日程の参加を原則とするので、日時をしっかりと確認すること。 他の参加者との身体的接触を伴う場合があります。強く抵抗がある場合は教員とよく相談の上で履修してください。</p>
実践的教育	<p>芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。</p>
備考欄	<p>実習の詳しい内容については、実習説明会や実習初日に説明します。 履修を考えている方は履修希望書の提出をお願いいたします。</p> <p>ゲスト講師と相談の上、教育の質保証ならびに授業の運営・安全確保の観点から受講者の上限を決める場合があります。定員を超える場合は、担当</p>

	教員が履修希望書を読んだうえで選考を行います。希望書の無記入、締切後の提出は選考に影響しますので、気をつけてください。
--	---